

	京都大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	<p>総合人間学部（第1年次：120名）</p> <p>人間・環境学研究科（M：164名、D：68名）</p> <p>アジア・アフリカ地域研究研究科（5年一貫制 D：30名）</p> <p>総合生存学館（5年一貫制 D：20名）</p> <p>地球環境学堂・学舎（M：44名、D：20名）</p> <p>東南アジア研究所</p> <p>地域研究統合情報センター</p>
沿 革	<p>明治19（1886）年 第三高等学校設置</p> <p>明治30（1897）年 京都帝国大学設置</p> <p>昭和24（1949）年 京都大学設置</p> <p>昭和38（1963）年 教養部設置</p> <p>昭和40（1965）年 東南アジア研究センター設置</p> <p>平成3（1991）年 人間・環境学研究科設置</p> <p>平成4（1992）年 教養部を改組し、総合人間学部を設置</p> <p>平成10（1998）年 アジア・アフリカ地域研究研究科設置</p> <p>平成14（2002）年 地球環境学堂・学舎設置</p> <p>平成16（2004）年 東南アジア研究センターを東南アジア研究所に改称</p> <p>平成18（2006）年 地域研究統合情報センター設置</p> <p>平成22（2010）年 東南アジア研究所、地域研究統合情報センターが共同 利用・共同研究拠点に認定</p> <p>平成25（2013）年 総合生存学館設置</p>
設置目的等	<p>昭和38（1963）年に、一般教養課程を担うため、教養部が設置された。</p> <p>昭和40（1965）年に、東南アジア地域に関する総合研究を行うことを目的とし、東南アジア研究センターが設置された。</p> <p>平成3（1991）年に、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指し、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成するほか、上質の一般教養科目を全学の学部学生に提供することを目的として、人間・環境学研究科が設置された。</p>

平成4（1992）年に、人間と、人間を取り巻く世界とを、総合的に捉えていく新たな学問的営為を確立するため、従来の個別科学の枠を超えた、より多様で総合的な学問の場を構築するとともに、学士教育と大学院教育とを全体的に俯瞰する視点から、上質の全学共通科目を全学の学部学生に提供することを目的として、教養部を改組し、総合人間学部が設置された。

平成10（1998）年に、先導的な地域研究者及び地域実務者の養成と、世界的水準のアジア及びアフリカ地域研究の確立を目的として、アジア・アフリカ地域研究研究科が設置された。

平成14（2002）年に、従来の基礎科学の上に立ち新しい「地球環境学」を開拓しうる高度な研究者の養成、地球環境を持続可能な形態で改善・維持・経営する能力を有し、地域レベルの具体的問題を解決しうる高度な実務者の養成を目的として、地球環境学堂・学舎が設置された。

平成16（2004）年に、東南アジア研究センターを東南アジア研究所に改称した。

平成18（2006）年に、地域研究に関する情報資源を大学・研究機関を超えて統合し相関型地域研究を推進することを目的として、地域研究統合情報センターを設置した。

平成25（2013）年に、幅広い領域にわたる「総合生存学」を確立し、それを修得したグローバル人材を養成することを目的として、総合生存学館を設置した。

強みや特色、  
社会的な役割

#### 【総論】

京都大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における学際諸分野の先導的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

#### 【教育】

(学部)

- 文理にわたる多様な分野を擁する学際・融合的分野における教育研究を通じて、知の総合的飛躍による問題解決能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、主専攻に加えて主専攻以外の分野を副専攻とする教育課程を編成し、複数の学術分野の視点から物事を多面的に捉える能力を養う機会を提供している。
- 今後、学生の異分野への挑戦を支援する教育カリキュラムの充実、海外留学のなお一層の支援、留学生の受入れ体制の更なる充実を図るとともに、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課

程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### (大学院)

- 文理にわたる多様な分野を擁する学際・融合的分野における教育研究を通じて、知の総合的飛躍を意識的に進め、自らの知的次元を高める能力や、文理にわたる幅広い専門的学識を積み重ね、多様な専門分野を俯瞰する能力、自ら課題を設定し、その解決の営みを通じてグローバルリーダーとなりうる能力、地球環境に関する先駆的な研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、国際社会・地域社会で協力体制を構築する能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、指導教員だけではなく、メンター・副指導教員とアドバイザー等による重層的な指導体制を整備している。また、学生を海外で長期の単独フィールドワークに従事させているほか、英語による授業を行うなどの工夫を行っている。
- 今後、社会人、留学生の受入れを含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、効率的な教育体制を構築すべく教育組織の見直しを行うなど、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、海外大学と連携した学位授与制度の導入を目指し、海外の大学との連携を強化することを通じて、教育の国際通用性を確保する。

#### 【研究】

- 現代世界が直面する複合的社会課題に学術横断的に立ち向かうため、知の総合的飛躍を意識的に進めている。また、アジア・アフリカをはじめとする地域で、豊富な地域関連資料データと現地フィールドワークに基づく文理融合型の総合的地域研究を行っている。
- これらの取組を通じて、芸術学をはじめとする学際分野の研究においてピーコ・デッラ・ミランドラ賞（イタリア）や日本学術振興会賞を受賞するなど成果を上げるとともに、食品用殺菌剤の開発や腸管感染症の世界標準検査法の確立、僻地における医療研究などによる現代世界の諸問題解決のための指針の提示を行い、世界的な福祉の向上に寄与している。
- 今後は、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国のみならず国際社会とその環境がもたらす諸課題の解決及び文化の発展を牽引する。また、我が国における社会・文化・自然環境に関する研究成果を国際的に広く発信する。

#### 【その他】

- 地球社会が直面している複合的・構造的な諸問題の解決に率先してチャレンジし、持続可能で創発力ある社会システムの構築にリーダーシップを発揮する人材の育成と総合生存学の確立を目指し、平成 25 年度に 5 年一貫制の大学院である総合生存学館を設置した。引き続き、社会のニーズに基づき、組織体制の不断の見直しに努める。
- 地球環境学分野における大学院においては、定員未充足の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、定員規模の見直し等に取り組む。